

編集後記

近代スポーツでは、立った姿勢で体を瞬時に移動させる場合、姿勢は安定させ足で地面やキャンバスマットを蹴る、と教えられることがある。もちろん競技の種類や場面に依りて変わるのであろうが、安定な姿勢を保ちながら移動する方が無駄なエネルギーを消費せず効率的という。このため速く移動しようとする蹴る足の筋力を増やしたりパワーウエイトレシオを小さくしたりすることになる。一方で、最近、古武術における「膝抜き」という技術が注目されている。足が何かに引っかかったような不安定な体勢を作り、体が倒れこむ力を利用して高速に移動する。自身の筋力以外に重力を積極的に利用している。実はプロサッカー選手のようなトップアスリートはこの「膝抜き」と同様の技術を使っているとの指摘もあり、それほど特殊な技術ではないのか

もしれない。しかしパワー至上主義者の私は「不安定を利用する」という発想と、それが身体操作法として体系化されてることに感嘆した。

保健体育的運動学から数理科学に目を移すと、近年の二足歩行のモデルでは、不安定な状態の繰り返し安定な歩行の実現の鍵だそう。ここでも「不安定な状態」が関与しているのが面白い。不安定といえば、プラズマは不安定性の宝庫である。核融合プラズマでは、我々は様々な不安定性を押し込め、あるいは抑制してきたが、近年、2次の不安定性を通じてプラズマが安定化する機構が知られてきた。ここで発想を変え、核融合プラズマであえて不安定な状態にすることで最終的に安定になるような「不安定の利用」ができないだろうか、と何度も床を蹴りながら日々考えを巡らしている。(稲垣 滋)

プラズマ・核融合学会役員

会 長：小森 彰夫 副会長：吉田 善章(推薦委員長:学会賞,男女共同参画委員長) 白谷 正治(推薦委員長:研究助成)
常務理事：室賀 健夫(総務委員長)
理 事：浅野 克彦(財務委員長) 浅野 史朗 上田 良夫(年会運営委員会プログラム委員長)
内野喜一郎(支部・地区研究連絡会委員長) 小野 靖(年会運営委員長) 岸本 泰明(研究部会連絡委員長)
草間 義紀 久保 博孝(広報委員長) 坂本 瑞樹
佐々木浩一(企画委員長) 白神 宏之 豊田 浩孝
長谷川 晃 波多野雄治(編集委員長)
監 事：利根川 昭, 森田 純子

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：波多野雄治(富山大) 副委員長：坂本瑞樹(筑波大)
エディタ：金子俊郎(東北大), 坂本瑞樹(筑波大), 中村祐司(京大), 長友英夫(阪大), 小西哲之(京大), 酒井 道(滋賀県立大)
編集委員：安堂正己(量研機構), 石野雅彦(量研機構), 稲垣 滋(九大), 伊庭野健造(阪大), 太田貴之(名城大), 大西直文(東北大), 小田昭紀(千葉工大), 小田卓司(ソウル国立大), 神吉隆司(海上保安大), 古閑一憲(九大), 齋藤和史(宇都宮大), 佐々木徹(長岡技科大), 佐藤雅彦(核融合研), 清水昭博(核融合研), 須田善行(豊橋技科大), 高橋裕己(核融合研), 高橋光俊(助川電気工業), 龍野智哉(電通大), 近田拓未(静岡大), 仲野友英(量研機構), 西塚直人(NICT), 比村治彦(京都工繊大), 村上朝之(成蹊大), 八木重郎(核融合研), 八柳祐一(静岡大), 柳 長門(核融合研), 余語覚文(阪大), 渡邊裕樹(首都大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第92巻第10号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2016年(平成28年)10月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。